

## 第 17 回比較防災学ワークショップ

### 第 28 回第 3 回災害対応研究会公開シンポジウム

「国難と都市災害：来るべき国難にどのように備えるべきか—V」

日時 2017 年 1 月 23 日（月）14:00～16:30 — 1 月 24 日（火）10:00～16:00

場所 神戸国際会議場 5 階 501 号室

### 公開シンポジウム（1 日目）「何が明らかになったか」について研究代表者が語る

（司会：木村） 第 17 回比較防災学ワークショップ、平成 28 年度第 3 回災害対応研究会公開シンポジウム「国難と都市災害：来るべき国難にどのように備えるべきか—V」を開催したいと思います。

私は、本日および明日の午前中の司会を担当する兵庫県立大学の木村です。よろしくお願いたします。配布資料のクリアファイルの中に入っている次第をご覧ください。次第の内容に沿って進めていきたいと思っています。本日 1 月 23 日、『「何が明らかになったか」について研究代表者が語る』というタイトルで始めたいと思っています。

まず、開会挨拶を、関西大学社会安全研究センター・センター長／教授、河田恵昭先生よりお願いいたします。

### 開会挨拶

河田 恵昭（関西大学社会安全研究センター センター長・教授）

もう 17 回もやったのかと感無量で、私もとうとう 70 歳になりました。もうじき 71 歳になりますが、相変わらず元気を取りえで、生きている限りやろうという気持ちです。

タイトルになっている「国難と都市災害」ということで、林春男先生と私がそれぞれ研究代表者として長年にわたってやってきたテーマについて年 1 回、阪神大震災の被災地で情報を発信しています。毎回同じタイトルがついていますが、毎回同じことを話しているわけではありません。そのようなことをしたら大学を首になるので、イノベーティブな結論をいつも持ってきています。しかし、1 時間では全てを語ることは無理ですから、私と林先生で、初日は二つの研究会で行ってきたこと、目指していることを皆さま方にご紹介します。2 日目は個別研究の内容をご紹介します。

実は、お手元に「1.17 ひょうご安全の日宣言」という文書が入っています。ご承知のように兵庫県は、ひょうご安全の日推進県民会議という組織を作っており、毎年 7000 万円の補助金で、地区の避難訓練や震災のコンサートを行っています。今まで「はばタン」の絵を案内状に書くように言っていたのですが、この期に及んで 7000 万円ものお金を、住民を中心とした防災活動に支援しているのは兵庫県だけで、しかも延々とやっていて、震災 20 年のときは 3 億 5000 万円出したのです。このような県はどこにもないので、もっと感謝してもらわなければならないということで、「1.17 ひょうご安全の日宣言」を毎回全員で読むことを委員長命令にしました。

私はずっとこれを書いています。初めの頃は国語の先生にひどく怒られて、「このような宣言文は駄目だ」とたくさん赤が入りました。井戸知事は俳句をするので、少し赤を入

れるのですが、見事に合格して最近は全然赤が入らなくなりました。そうして苦勞して作っているのに、1.17 の追悼のときは、私が読んでそれで終わりなのです。最近やっと朝刊に載せてくれるようになりました。今年は読売新聞も日本経済新聞も載せてくれました。

神戸市役所の職員のうち 52%が、阪神大震災を直接体験していないそうです。この集会も補助金を頂いていますので、今年の宣言は今回の集会に間に合いませんでしたが、去年のものを私が読み上げますので聞いてください。

#### 1.17 ひょうご安全の日宣言

6,400 名を超える尊い命を奪い、未曾有の被害をもたらした

阪神・淡路大震災から 21 年経った

私たちは国内だけでなく 世界の多くの人たちにも  
この経験や教訓を知ってもらいたい 活かしてもらいたい  
そのように願って 伝え続けてきた

11 年前に国連防災世界会議が開催された

震災の教訓を発展させた 兵庫行動枠組は

さらに 昨年の仙台防災枠組にも生かされた

創造的復興は ひきつづき世界の防災の目標となった

でもこの間 地球の温暖化も進行し

ハリケーンや台風の大型化と

集中豪雨災害の多発という形で顕在化してきた

災害は新たなステージに入ったのだ

だから 私たちもここを新たに

阪神・淡路大震災の経験や教訓を もっと伝えなければならない

南海トラフ巨大地震や首都直下地震の発生も心配だ

だから もっと対策を進めなければならない

次なる災害に備えるには

日常防災が役に立つ

それにつながる防災教育も一層進めたい

それらが災害文化となって 安全 安心社会を実現する

1.17 は忘れない 伝える 備える 活かす 阪神・淡路大震災の教訓を

震災の教訓は すべての災害に通じる知恵だから

2016 年 1 月 17 日

ひょうご安全の日推進県民会議

明日は今年のもので読みます。違うことが分かっていただけると幸いです。決して毎年コピーしているわけではないので、よろしくお願ひいたします。

